

令和元年度 東京都立小山台高等学校 学校経営報告

(全 日 制 課 程)

校 長 大田原 弘幸

1 今年度の取組みと自己評価

(1) 教育活動への取組みと自己評価

① 学習指導

<目標と方策>

- ・土曜授業を実施し、授業時間の確保を図る。
- ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習などアクティブラーニングの視点から授業改善を図り、知的好奇心を一層高める。
- ・予習・復習を習慣化させ、家庭学習の定着を図る。
- ・各教科で、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力スタンダード及び年間授業計画を策定し、組織的・体系的な学習指導及び教材開発を進めるとともに、進学指導の更なる充実を図るため、外部機関と連携を図る。

<取組みと自己評価>

- ・年間20回の土曜授業を実施し、7時間授業と組み合わせることで1・2学年は34単位、3学年は35単位の授業を確保した。(評価 B)
- ・学校評価アンケートの結果では、「小山台の教員は指導内容や指導方法をよく工夫し、質の高い授業を行っている」という項目で肯定的意見は生徒76%（昨年度74%）、保護者65%（昨年度67%）で、昨年度並みであった。授業内容について改善を求める意見（自由記述）も少なからずあり、主体的で・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科で授業改善に取り組む必要がある。(評価 B)
- ・学校評価アンケートの結果では、「小山台では、日常の教育において、教科間の連携が取れている」という項目で教員の53%（昨年度53%）が否定的回答であった。課題量や小テストの調整など、教科を越えて情報共有する必要がある。(評価 C)
- ・家庭学習時間については、1日2時間以上の家庭学習をおこなっている生徒が75%（昨年度64%）、うち3時間以上行っている生徒が33%（昨年度27%）で増加した。(評価 A)
- ・夜間自習室を常設するとともに3学年には長期休業中（年末年始を含む）に自習室を開設した。(評価 A)

② 進路指導

<目標と方策>

- ・進路指導部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるとともに、広い視野で社会を見る眼を育てる。
- ・生徒の進路希望に応じた進学講習の充実を図るとともに、講習の実施方法を工夫し、生徒がこれまで以上に前向きに講習に取り組む意欲を引き出し、難関国公立大学にチャレンジする生徒を育てていく。
- ・全国規模の外部模試等の結果分析を的確に行い、データに基づく進学指導を進めるとともに、第一志望をあきらめない生徒の姿勢を育てる。
- ・班活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

<取組みと自己評価>

- ・学校評価アンケートの結果では、「小山台で行っている補習、長期休業中の講習など通常の授業以外の学習機会は、生徒のニーズに合わせ、生徒の学力向上に役立っている」という

項目で肯定的意見が生徒は 66%（昨年度 74%）、保護者も 71%（昨年度 74%）で一昨年度から減少傾向にあり、今後各教科で長期休業中の講習を含めて講習・補習の内容を検討する必要がある。（評価 C）

- ・外部模試の結果分析及び検討会を工夫し、生徒一人一人の状況を全教職員が把握できた。
- ・下校時間後の自習室を常時開設し、学習と特別活動の両立を図った。大学合格実績は国公立大学合格者 112 名（現役 81 名）、難関国立大学合格者 10 名（現役 2 名）で、4 年連続 100 名を超えることができた。（評価 B）

③ 生活指導

<目標と方策>

- ・生活指導統一基準をもとに、あいさつをする、ルールを守る、身だしなみをきちんとするといった学校生活における基本的なマナーを適切に指導し、規範意識と自立心を育てる。
- ・授業開始のチャイムと共に授業を開始することなどを通じて、授業にきちんと取組む姿勢をつくる。
- ・時間の切り替えと集中を徹底して指導し、家庭での学習時間を確保できる生活サイクルを確立させる。特に、定時制との施設共有の意味を理解させ、17 時の下校時間を意識させる指導を徹底する
- ・生徒の問題行動等への対応において、保護者、地域住民、関係機関と連携・協力できるサポート体制（学校サポートチーム）を確立し、生徒の健全育成を図る。
- ・体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて学年を超えた連絡体制を構築するとともにし、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

<取組みと自己評価>

- ・学校評価アンケートの結果では、「小山台は、服装やマナーなど生活指導が徹底されている」という項目で、地域等・保護者・教員の肯定的意見は 8 割を超えて高いが、生徒の肯定的意見が 66%（昨年度 72%）と減少した。問題行動等は多くはないがゼロではない。今後も組織的に生活指導を行う必要がある。（評価 B）
- ・定時制との施設共有の意味を理解させ、17 時の下校時間を意識させる指導を徹底する必要がある。（評価 C）
- ・地域住民、関係機関と連携・協力が十分とは言えない状況があり、サポート体制を強化する必要がある。（評価 C）

④ 特別活動・班活動

<目標と方策>

- ・学習との両立を前提に、学校行事・班活動・委員会活動等に積極的に取り組ませることで、活力ある学校づくりを進める。特に、班活動においては、東京都教育委員会の部活動の在り方に関する方針に基づき積極的に休養日等を設ける。
- ・体罰や行き過ぎた不適切な指導はあってはならない。健康で安全な活動ができるよう、教職員はもとより、生徒・保護者に向けても体罰根絶への意識を高める。
- ・小山台高校の伝統を引き継いでいるという自覚を持ち、責任ある態度を育てる。
- ・東京都の次世代リーダー育成事業や公益財団法人小山台教育財団の国際交流事業を活用して国際交流を一層積極的に推進し、生徒の国際社会への関心を高めていく。

<取組みと自己評価>

- ・陸上班生徒が全国高校総合体育大会（インターハイ）に出場した。
- ・野球班が全国高等学校野球選手権・東京都大会で準優勝した。

- ・ブラスバンド班都大会 ABC 組すべて金賞を受賞し A 組は都代表となった。
- ・将棋班、ダンス班が全国大会に出場した。(評価 A)
- ・東京都の次世代リーダー育成事業により 1 名の生徒が 1 年間の留学に旅立った。今後も小山台教育財団との連携を密にして、国際交流事業をさらに活性化させる。(評価 A)

⑤ 健康づくり

<目標と方策>

- ・体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動を通して取り組み、生徒の健全育成を図る。
- ・スクールカウンセラーを活用し、特に心の健康に対応できる相談体制を確立するとともに関係法令に基づき生命尊重に資する教育を推進する。
- ・メンタルヘルス講習会、救急救命講習会等の実施や校内美化の推進を通して、生徒の健康と安全への関心と自覚を深める。

<取組みと自己評価>

- ・生徒とスクールカウンセラーの面接方法を改善したことにより全員面談は昨年度から時間確保できる計画とした。生徒の心のケアの重要性を教職員全員で共有し、今後も生徒一人一人の心と身体の健康づくりに組織的に取り組む必要がある。(評価 B)

⑥ 募集・広報活動

<目標と方策>

- ・中学生やその保護者、地域の方々に学校を訪れ、生徒の活動の様子を直接見ていただく機会をできるだけ多く設定し、学校としてより組織的・積極的な募集・広報活動を展開する。
- ・ホームページの充実を図り、本校の教育活動を積極的に掲載し、学校の発信力を高める。
- ・中学校、塾への積極的な訪問により、小山台の良さを発信する機会を増やす。

<取組みと自己評価>

- ・今年度の学校説明会等への参加者は 5,144 名（昨年 5,286 名）であった。入学選抜の一次募集の倍率は 1.64 倍（昨年 1.67 倍）と微減した。中学生の都立高校離れの傾向があるが次年度も丁寧な学校説明を継続する。(評価 B)
- ・学校評価アンケートの結果では、「小山台高校の学校公式ホームページは、充実している」という項目で肯定的意見が生徒は 44%（昨年 48%）、保護者 71%（昨年 74%）と昨年より減少している。特に、生徒が求める情報発信に努める必要がある。今年度より、気象状況により緊急連絡ができるように公式 Twitter を運用開始した (評価 C)
- ・運動会・文化祭への来校者も 7,368 名（昨年 7,615 名）で昨年度より減少したが、平年並みとなっている。(評価 B)

⑦ 学校経営・組織体制

<目標と方策>

- ・企画調整会議を中心として、各分掌間の連携を強化し円滑な組織運営を図る。
- ・「進学指導特別推進校」「英語教育推進校」という東京都教育委員会の指定事業の有機的な結合を図る。それにより、それぞれの取組みが学校の特色を生かし、生徒に有益に機能するよう活用していく。
- ・予算の適切な執行（センター執行率向上）、学校徴収金の管理や個人情報取り扱いを適切に行うとともに、経営参画ガイドラインをもとに、教員との連携・協力体制を構築し、経営企画室の経営参画と事務処理の円滑化を図る。
- ・職員室及び経営企画室等の整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、整理整頓された見通

しの良い執務室を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに教育環境の整備を図る。

- ・「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、健全なライフワーク・バランスを推進する。特に、企画調整会議や職員会議等の校内会議は時間短縮（1 時間以内）する工夫を行う。

<取組みと自己評価>

- ・企画調整会議を中心とした学校経営はおおむね良好に機能している。生徒への補習・講習の実施など時間的制約も多く各種委員会の開催が困難となっている。教員の働き方改革の推進のためにも会議日程や内容を計画的に調整し時間短縮に努力した。（評価 B）
- ・一般需用費予算のセンター執行率は 54%で目標を達成できなかった。次年度はさらに計画的な予算執行に努める必要がある。経営企画室の業務は円滑に運営ができた。（評価 B）

(2) 重点目標と方策

① 学習指導・生活指導

- ・授業を大切にし、授業に前向きに取り組む姿勢を育て、生徒自らが主体的に学ぶ家庭学習時間の増加を図る。
- ・集中と切り替えを徹底し、学習と班活動や学校行事のバランスをとる時間管理をさせる。
- ・1，2 年生への補習、補講、勉強合宿等を効果的に実施することで、基礎学力の維持・向上を図る。

【数値目標】

項 目	目 標	令和元実績	30 実績	29 実績	評価
1, 2 年家庭学習時間 2 時間以上	60%以上	75%	64%	69%	A
1, 2 年家庭学習時間 3 時間以上	30%以上	33%	27%	33%	A
1, 2 年夏期・冬期講習講座数	20 講座以上	21 講座	27 講座	17 講座	B

<取組みと自己評価>

- ・1・2 年生の家庭学習時間については増加傾向にある。学習内容の向上が求められる。
- ・1・2 年生の講習講座数は昨年度に比して減少した。

② 進路指導

- ・生徒に高い目標をもたせ、(難関) 国公立大学、難関私立大学への進路希望を実現させる。
- ・全国模試等を活用して、同時期の定点観測や同一学年の学力の伸び方の測定を丁寧に行い、生徒の学力を把握して学習指導、進路指導に生かしていく。

【数値目標】

項 目	目 標	令和元実績	30 実績	29 実績	評価
センター5(6)教科 7 科目受験者	160 名以上	168 名	162 名	199 名	A
難関国公立大学合格者	10 名 (現役 8 名)	10(2)名	4(2)名	9(2)名	A
国公立大学合格者	100 名 (現役 90 名)	117(86)名	103(77)名	100(75)名	A
難関私立大合格者	60 名 (現役 40 名)	81(60)名	89(61)名	41(32)名	A
3 年夏期・冬期講習講座数	70 講座以上	64 講座	66 講座	78 講座	B

＊センター5(6)教科 7 科目受験者は平成 30 年度から新設（平成 29 年度までは 5 教科以上）

＊難関国公立大＝東大・京大・東工大・一橋・国立大医学部

＊難関私立大＝早大・慶大・上智大

<取組みと自己評価>

- ・センター５教科以上受験者は 168 名（53%）で昨年の 162 名（51%）と同程度であった。
- ・難関国立大学の合格者は 10（現役 2）名で、現役生は同数であるが浪人生が増加した。
- ・国公立大学の合格者は 117（現役 86）名で 4 年連続 100 名以上を維持した。
- ・難関私立大学合格者は早慶上智大で 81（現役 60）名、理科大を合わせると 111（現役 76）名で昨年よりやや減少した。

③ 特別活動等

- ・学習との両立を前提に班活動や学校行事の充実を図り、生徒が誇りをもって活動する学校づくりに取り組む。
- ・活動時間、活動内容をさらに工夫することで、効率的な練習、準備を進め、常に家庭での学習時間を確保できるようにする。

【数値目標】

項 目	目 標	令和元実績	30 実績	29 実績	評価
部活動加入率	100%以上	100%	100%	103%	A
都ベスト 8 以上	5 班以上	5 班	4 班	3 班	A
運動会、文化祭の来校者数	6,000 人以上	7,368 人	7,615 人	6,994 人	A

<取組みと自己評価>

- ・都ベスト 8 以上となったのは、陸上跳躍個人（インターハイ出場）野球班（都準優勝）、将棋班（全国大会出場）ダンス班（全国大会出場）、ブラスバンド班都大会金賞、ブラスバンド班が打楽器アンサンブルコンテストで全国大会に出場した。

④ 募集・広報活動

- ・学校見学会、学校説明会、授業公開等の充実を図り、生徒の姿を見てもらう機会を増やしていく。
- ・中学生に対する班活動技術講習会を実施する班を増やしていく。
- ・ホームページの更新回数を増やし、広く本校の教育活動についての情報を提供する。

【数値目標】

項 目	目 標	令和元実績	30 実績	29 実績	評価
学力検査での受験倍率	1.7 倍以上	1.64 倍	1.67 倍	1.57 倍	B
説明会等への参加者	5,000 名以上	5,144 名	5,286 名	5,315 名	A
技術講習会実施班活数	7 班以上	8 班	9 班	6 班	A

<取組みと自己評価>

- ・最終応募倍率は、昨年度の 1.67 倍から 1.64 倍に微減した。
- ・説明会を年 3 回にしたことにより 5000 名以上参加を継続している。
- ・班活講習会は、硬式テニス、ソフトテニス、男・女バスケットボール、バドミントン、ブラスバンド、生物、茶道、天文の 8 班が実施した。

2 次年度以降の課題と対応策

「学校行事や班活動を活発に行いつつ、国公立大学をめざせる小山台高校」であり続け、かつ難関な国公立大や私立大を目指す生徒の夢を実現するために、以下の課題に対応していく。

(1) 全ての教科に全力で取り組む学習姿勢の育成

- ①各教科でより高い水準での知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高める授業を工夫する。
- ②自ら学ぶ小山台生を育成するために、教科間で連携し適正な質と量の課題を課すことを検討し、課題等に頼らない学習習慣の定着に取り組む。また、長期休業中の講習と班活動の時間帯の調整を組織的に図る。
- ③模試等を活用し、生徒の学力水準を定期的に把握し、向上させる方策を検討する。

(2) 国公立大学、難関国立大学への進学をめざす進路指導体制

- ①国公立大学の合格実績は昨年度より向上したが、難関私立大学合格者が減少している。今後とも現役生の第一志望合格が達成できるよう進路指導部を中心に具体的な数値目標達成に向けた取り組みを強化する。また、外部模試の結果分析及び検討会は生徒一人一人の状況を全教職員が共通理解できるものにする。
- ②特別活動、学校行事と学習の両立を徹底する。授業時間確保を前提に「集中と切り替え」指導の徹底を図る。
- ③教科主任を中心に各教科で組織的に生徒の学ぶ意欲を高める AL 的授業の確立に向けた授業改善を推進する。

(3) 学ぶ者としての基本姿勢を育てる生活指導

- ①あいさつ、身だしなみ、時間・ルールの厳守等、高校生としての基本的なあり方についての指導をより継続する。特に、定時制との施設共有の意味を理解させ、17 時の完全下校や下校時の正門付近や駅構内でのマナー指導を徹底する。
- ②家庭での学習時間を確保できる生活サイクルを確立できる環境を整え、実行できるよう指導する。班活動は学校部活動ガイドラインに沿って適切に休養日を確保する。

(4) 心と身体の花健康づくりの推進

- ①生徒一人一人の心の健康に対応するために、カウンセリング委員会を中心にスクールカウンセラーと連携を図り、学年を超えた連絡相談体制を確立する。
- ②教科指導、学校行事、班活動などあらゆる活動を通して、体力の向上・健康的な生活習慣の維持等、生徒の健全育成を図る。

(5) 学校 PR と募集対策の改善

- ①本校の特色ある教育活動を教職員全員で共通理解を図る。年間 3 回の学校説明会等の募集活動を継続する。
- ②公式ホームページをこまめに更新し、必要な情報を発信できる体制を継続する。特に、生徒が求めている情報が適切に伝えられる工夫を行う。